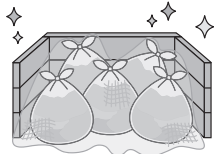


ごみステーションは町内会・自治会等が所有・管理しています。決められたステーションに収集当日の午前8時30分までに排出しましょう。



ごみは決められたステーションに排出しましょう

ごみの出し方を確認してください



放置された違反ごみの排出者には個別に指導することも

ごみステーションで違反ごみの排出が確認され、同じステーションを利用して他の町民から苦情が発生しています。

町では、再分別と注意喚起のために違反ごみにはシールを貼り、一定期間収集をしません。しかし、長期間放置すると生ごみの腐敗臭や害虫の発生、カラス被害などの問題が起るため、状況を確認し町で回収しています。

回収した違反ごみは、排出者特定のために中身を確認し、判明した場合は個別に再分別の指導を行います。

Check! 違反シールが貼られていたら...

ごみ袋に違反シールが貼られた場合は排出した本人がすぐに引き取り、適正な再分別を行った後に違反シールの上からマジックなどで大きく「×」印を書いて再度排出してください。

灯油用ホームタンクの点検はお済みですか

これからの季節は積雪によるホームタンクの転倒や、除排雪による灯油導管の破損など、灯油が漏れる事故が多くなっています。

灯油が漏れると火災のおそれがあるほか、土壌や地下水への汚染、さらに河川に流出してしまうと下流域でその水を使用する農作物や飲料水へ大きな影響を与える可能性があります。汚染した土壌の除去費用などの損害額の補償は灯油を流出させた方の責任になります。数十万から数百万円、多いときは数千万円単位の請求が発生したこともあり、ホームタンクや配管の点検には十分な注意が必要です。

ホームタンクの点検ポイント

- ① 灯油の残量が不自然に減っていないですか。盗難や灯油漏れのおそれがあります。
- ② ホームタンク本体に穴が開いていませんか。



- ③ ストレーナカップや送油配管に穴やひび割れはありませんか。
- ④ ホームタンクの足場はぐらついていますか。ぐらついていると積雪や強風、地震で転倒するおそれがあります。コンクリートなどの土台にしっかりと固定してください。

油漏れを発見したときは、火災防止のため速やかに消防署へ連絡するとともに、被害を少なくするため環境生活課へ連絡してください。

消防署消防2課

☎ 73-0150

環境生活課

☎ 73-7511 (平日)

⑦ 1111 (夜間・祝祭日)

栗山学び隊 / 介護福祉学校

Vol. 78



介護福祉学校と栗山高校を隔月で取材! 先進国の福祉を学ぶ

フィンランド交換留学 (前編)

※来月号と2カ月にわたって掲載します。



折り紙でコミュニケーション

日本から7千キロ離れた北欧の国フィンランド。世界的な福祉国家として知られ、同国の取り組みは各国が進める福祉施策のモデルにもなっています。

介護福祉学校では、学生たちに先進国の福祉を肌で感じてもらうと、平成8年から留学生として同国へ送り出しています。

今年も9月に3人の学生がフィンランドへ旅立ちました。

いざ福祉先進国へ!

学生たちは、フィンランドの首都ヘルシンキから北へ約460キロにあるカヤーニ、さらに150キロほど北東に

あるケミを拠点に、約2週間、職業訓練校や高齢者介護施設などで実習を重ねました。

コミュニケーションを学ぶ

学生たちは、コミュニケーションについて多くを学んだと声をそろえます。

日本とフィンランドでは、年齢や人との距離感に対する文化的な捉え方に違いがあり、コミュニケーションにその特徴が見られます。フィンランドの高齢者施設では、スタッフと利用者の身体的距離は近く、日本では見られないハグも多く見られます。

日本では敬称で呼ぶのが一般的ですが、フィンランドでは敬称を付けず名前前で呼ぶため心理的距離も近いようです。

高橋さんは「スタッフの方が利用者さんと一緒にソファでくつろいでいる様子をみて驚きました。気持ちの距離が近く、居心地が良さそうに見えました」と言います。

また、フィンランドの福祉に触れていると、日本との違



職業訓練校での実習の様子

いに気づくことも多くあったそうです。「日本の介護は、利用者さんの自立支援・自己決定を支援するのが基本ですが、フィンランドでは利用者さんの快適さを重視した介護が行われていました。日本もフィンランドも利用者さんのことを第一に介護をしますが、考え方に違いがあることを肌で感じる事ができ、とても良い経験になりました」と留学で得た成果を振り返りました。

※続きは来月号 (令和8年12月号) に掲載します。